

EMIS(広域災害・救急医療情報システム)及び
G-MIS(新型コロナウイルス感染症医療機関等情報
支援システム)について

EMISの概要

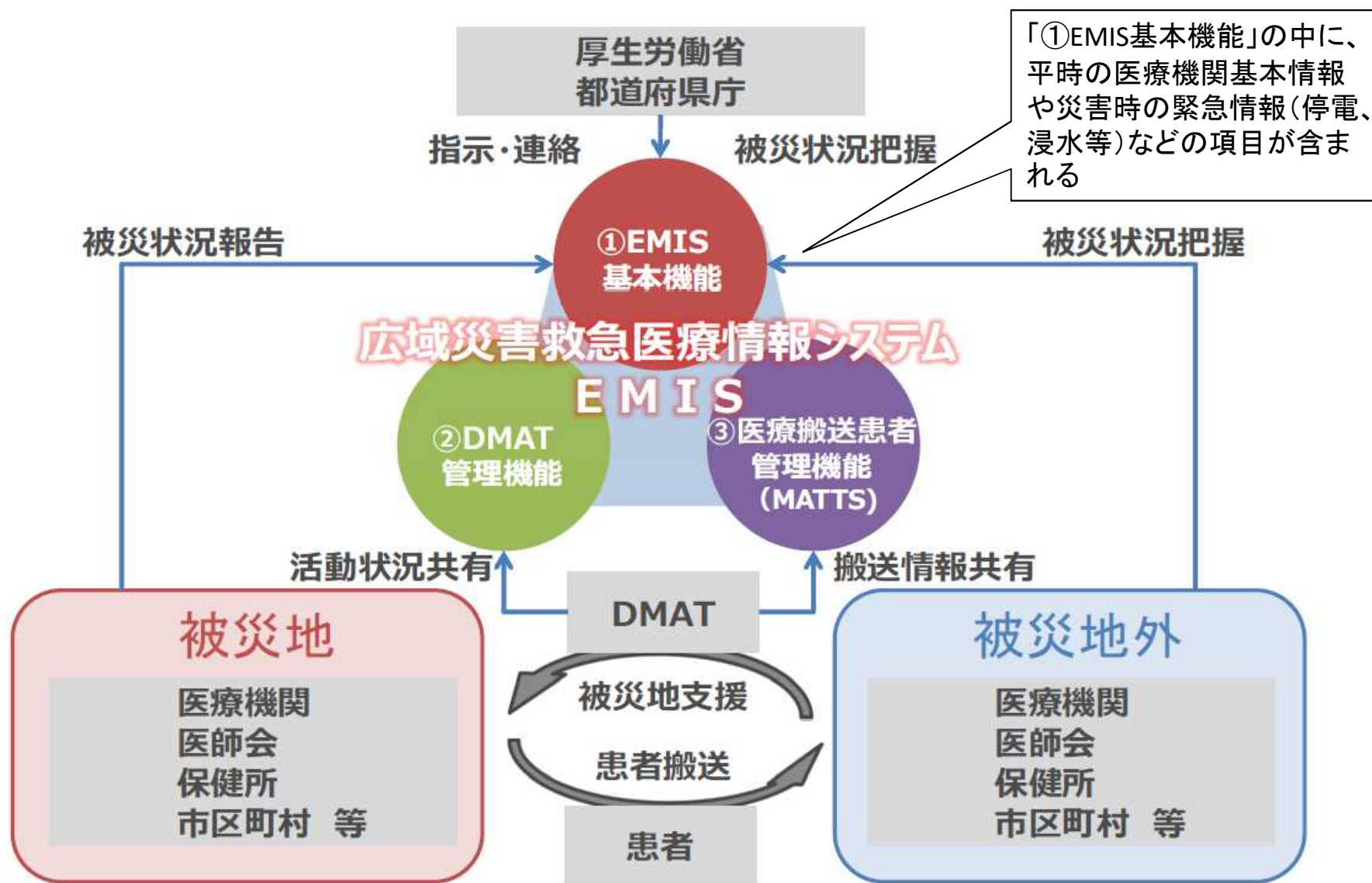
○広域災害・救急医療情報システム（EMIS）

概要：災害時に国、都道府県、災害派遣医療チーム（DMAT）等保健医療活動チームが医療機関の被災情報等を共有するシステムであり、平成8年より運用を行っている。

目的：災害拠点病院をはじめとした医療機関、医療関係団体、消防機関、保健所、市町村等の間の情報ネットワーク化及び国、都道府県間との広域情報ネットワーク化を図り、災害時における被災地内、被災地外における医療機関の活動状況など、災害医療に関わる情報を収集・提供し被災地域での迅速かつ適切な医療・救護活動を支援すること。

機能：①EMIS基本機能：医療機関基本情報、被災医療機関の緊急情報などの項目が含まれている。
②DMAT管理機能：リアルタイムにDMATの活動状況を把握できるシステム
③医療搬送患者管理機能（MATTS）：被災地域外への患者の搬出システム
④その他：情報共有のための掲示板、e-ラーニングなど

広域災害・救急医療情報システム(EMIS)の概要



G-MISの概要

○新型コロナウイルス感染症医療機関等情報支援システム（G-MIS）

概要：新型コロナウイルス感染症の発生を契機に、厚生労働省と内閣官房IT室が連携しG-MISを構築し、令和2年5月1日から、運用を行っている。

目的：病院の稼働状況、病床や医療スタッフの状況、医療機器（人工呼吸器等）や医療資材（マスクや防護服等）の確保状況等を都道府県が一元的に把握し、各医療機関を支援すること。

機能：①医療機関が入力した情報をシステムが自動的に集計し、自治体等に提供する。

（例 医療機関情報、医療資源情報、都道府県入力情報等）

②緊急配布要請(SOS)

・医療用物資の緊急配布が必要な場合、条件を満たした医療機関（※）が、各都道府県や国に対して緊急配布を要請する機能

※条件：次の①～③のいずれの要件も満たすことが必要

①欠品等により自ら調達できないこと

②新型コロナウイルス感染症患者（疑い患者を含む）を受入れる医療機関若しくはPCR・抗原検査を実施する（検体採取を含む）医療機関又は発熱患者等の診療・検査可能な医療機関として都道府県から指定される医療機関であること

③要請する医療用物資の備蓄見通しが1週間以内又は2～3週間

新型コロナウイルス感染症医療機関等情報支援システム(G-MIS*)について

*Gathering **M**edical **I**nformation **S**ystem on COVID-19

○ 厚生労働省と内閣官房IT室が連携し、情報通信基盤センター（仮称）を構築
 全国の医療機関（約8,000病院）から、病院の稼働状況、病床や医療スタッフの状況、
 医療機器（人工呼吸器等）や医療資材（マスクや防護服等）の確保状況等を一元的に把握・支援

必要な医療提供体制を確保

- 政府CIOポータルにおいて、各病院の稼働状況を可視化
- マスク等の物資の供給に活用
- 空床確保状況を、患者搬送調整に活用 等

【新システム導入のメリット】

国民

【医療機関情報】電話で確認する以外
 情報を得る方法はなかった

⇒ 政府CIOポータルから病院の稼働状況の閲覧が可能に

医療従事者

【報告】保健所へ電話等で報告
 【支援】支援を得るのに時間を要した

⇒ パソコン等での報告により保健所への照会対応不要に
 ⇒ 医療資材等の支援を迅速に受けることが可能に

保健所・
 都道府県・国

【保健所業務】保健所が、医療機関に
 電話等で照会し、都道府県を通じて
 国に報告

⇒ 医療機関が直接入力することで、即時に集計され、
 自治体、国で共有可能に（保健所業務の省力化）

【情報共有】情報共有に時間を要した

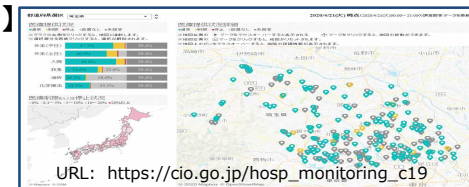
等が可能に

【病院の報告状況】

（令和2年9月23日現在）

【政府CIOポータル】

登録医療機関数	7,769病院	報告医療機関数	4,653病院
うち感染症指定医療機関	540病院	うち感染症指定医療機関	456病院

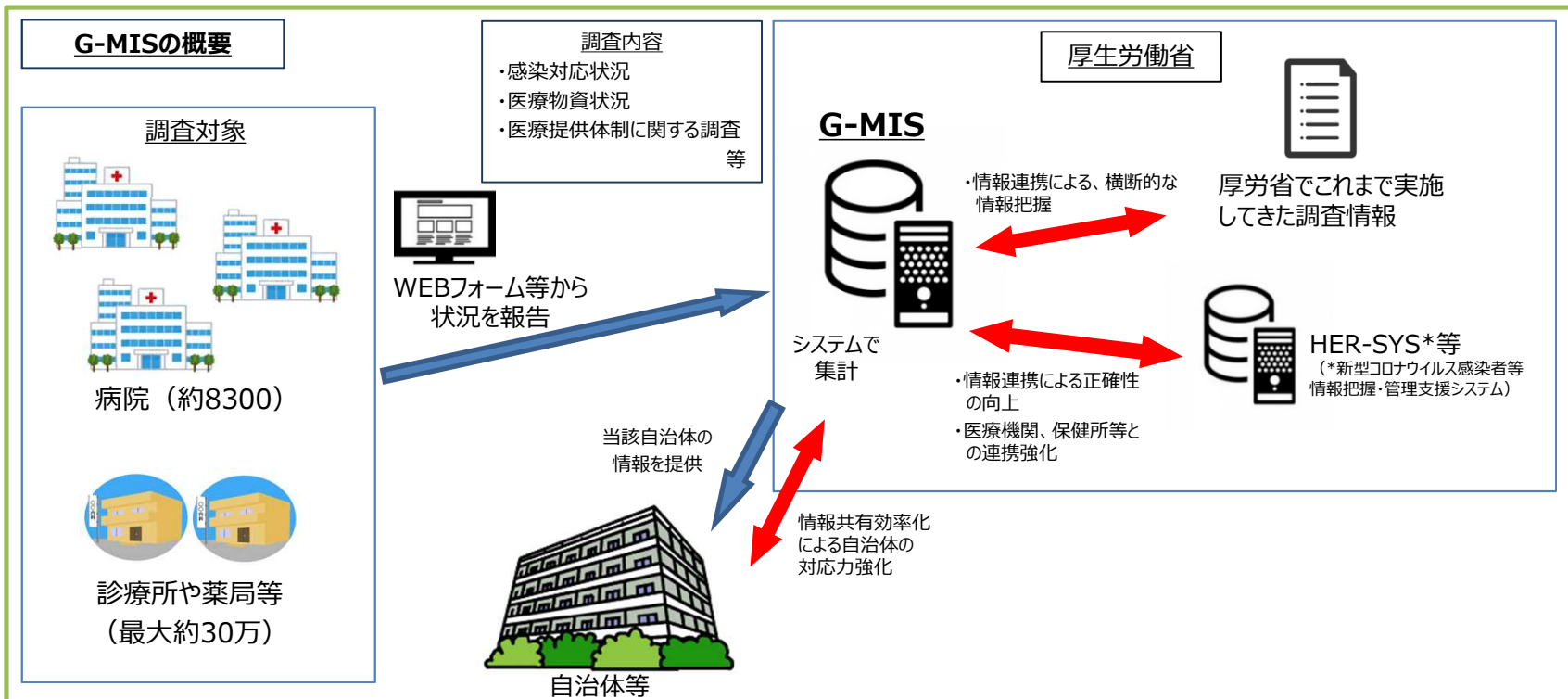


厚生労働省ホームページ

医療提供体制構築を支援する医療機関等情報支援システム(G-MIS*)の機能拡充等

【事業概要】

- 全国の医療機関の医療体制関連情報を迅速に収集するシステムは、令和2年度一次補正予算、二次補正による開発・運用以降、レムデシビル投与対象患者数やマスク等の緊急配付要望の把握等、病院への支援につなげるため活用されている。
- 現状では、厚生労働省が医療機関から収集してきた様々な情報との十分な連携ができておらず、緊急事態における医療機関の横断的な情報把握に課題がある。
- 今後も、緊急事態等においても円滑に医療が提供できるよう、普段から質が高く、効率的な医療提供体制の構築を推進するために、医療機関等の各種情報を、効率的かつ横断的に把握し、自治体、医療機関等とも情報共有できる調査のプラットフォームとして「G-MIS」を改修する。



* Gathering Medical Information System on COVID-19

EMISとG-MISの項目の概要

共に入力が必要な項目

EMIS

- 機関コード
- 機関名称
- 代表電話番号
- メールアドレス
- 許可病床数
- 結核病床数
- 外来受入れ状況
- 標榜科目

災害時の被災状況に関する必須項目

- 入院病棟の危険状況
- 倒壊または倒壊の恐れ
- 電気・水道・医療ガスなど使用状況
- 火災・浸水の有無

災害時の被災状況以外の項目

- 医薬品の使用状況
- 医薬品・衛生資機材の不足

災害時に任意で入力する項目

新型コロナウイルスに関連する項目

G-MIS

- 医療機関ID
- 医療機関名
- 電話番号
- メールアドレス
- 全病床数
- 結核病床数
- 外来（平日）

- 現在の新型コロナ感染者数
- 感染疑いの新規発覚
- PCR検査実施人数
- 新型コロナ感染者の入退院状況
- レムデシビル関連
- 人工呼吸器、ECMO、など追加受け入れ状況
- マスク、ゴーグルなど医療資材備蓄状況

課題①

○現在、EMISとG-MISの両方のシステムを運用しているところであるが、医療機関の入力負荷の軽減や継続的なシステムの運用を進めていく上で、両システムの今後の在り方について、以下が課題になるのではないか。

課題 1 : 目的や機能が異なる両システムについてどのように考えるか。

課題 2 : EMISとG-MISで重なる医療機関の情報収集機能のうち、入力する情報についてどう考えるか。

課題 3 : 両システムの使い勝手の向上の観点で、どのようなことが考えられるか。

課題②

課題1：目的や機能が異なる両システムについてどのように考えるか。

- 1-1 EMISには、災害時に被災医療機関の情報を共有し、迅速に支援する機能がある。
- 1-2 EMISには、災害時にDMATの活動状況を一元的に把握して適切な人員配置を調整する機能がある。
- 1-3 EMISには、災害時に航空機を用いて患者搬送を行う際に関係者間で情報を共有する機能がある。
- 1-4 G-MISには、医療機関の受入れ状況、医療資材の確保状況を都道府県が一元的に把握し、支援する機能がある。
- 1-5 G-MISには、緊急配布要請（SOS）で医療用物資を緊急配布する機能がある。

課題2：上記1-1と1-4で重なる医療機関の情報収集機能のうち、入力する情報の必要性についてどう考えるか。

- 2-1 共に入力が必要な項目
- 2-2 EMISにあってG-MISに無い項目
- 2-3 G-MISにあってEMISに無い項目

課題3：両システムの使い勝手の向上の観点で、どのようなことが考えられるか。

- 例1 災害関連情報と、感染症対応情報の一元化
- 例2 入力内容が更新された場合の自動反映
- 例3 シングルサインオン（※）

○その他、両システムの運用に対して、注意すべき論点はあるか。

※シングルサインオン：1度のユーザー認証によって複数のシステム（業務アプリケーションやクラウドサービスなど）の利用が可能になる仕組み（NTTコミュニケーションズ「ITトレンド用語」より）